

令和元年度 第1回羽咋市総合教育会議 会議録（要約）

1 日 時 令和元年 11 月 15 日（金） 10 時 00 分～11 時 00 分

2 場 所 羽咋市役所 302 会議室

3 出席者 羽咋市長 山辺 芳宣
教育長 八島 和彦
教育長職務代理者 木谷千恵子
教育委員 井上 克彦
教育委員 今井 和秀
教育委員 安達 吏和

（事務局関係）

総務部長兼総務課長 川口 哲治
総務部次長兼企画財政課長 山本 裕一
総務課主幹兼行政係長 蓮本 義哲
教育次長兼学校教育課長 西井 健一
学校教育課学務担当課長 松田 宏明
学校教育課課長補佐 岡嶋 克己

4 協議事項

（1）羽咋市の教育の現状と課題について

（2）教育関連事業

①教員の多忙化改善について

スクール・サポート・部活動指導員の継続配置

②英語教育等の強化について

中学生海外派遣の実施、英語検定受験料補助の継続

③高い学力を維持するための教育環境整備促進

学校施設等の充実（トイレ洋式化等）、デジタル教科書の導入

④学校サポート体制について

学校支援員の継続配置、図書館司書・図書館事務員の増員

（3）その他

5 会議経過の概要

次のとおり

○市長あいさつ

○協議事項

(1) 羽咋市の教育の現状と課題について

教育長から羽咋市の教育の現状と課題について説明。

(2) 教育関連事業

- ①教員の多忙化改善について、木谷職務代理から説明。
- ②英語教育等の強化について、井上委員から説明。
- ③高い学力を維持するための教育環境整備促進について、今井委員から説明。
- ④学校サポート体制について、安達委員から説明。

(3) その他

主な意見等は下記記載のとおり。

【出席者からの質疑・意見等】

＜協議事項（１）について＞

（八島教育長） 【現状】

①学力調査の結果で、高い学力を維持していること
令和元年度の県の学力調査では、県平均を上回っており、高い学力を維持している。近年中学３年で成果が出ていることは、小学校での取り組みが継続されているものと思われる。全国学力調査で初めて行われた英語についても、昨年度より本格的に取り組んできた小学校における英語の日常化と中学校での英検への取り組みの成果が出ているものと思われる。

②英検受験の現状について
今年度の英検の取得状況では、２級が４名、準２級が１６名、３級が９０名となっている。中学３年生だけでは３級以上の取得者が７７名で５１％となり半数を超えており、昨年からの取り組みが成果をあげている。

③青少年交流の家との連携協定事業について
市内全小学校の高学年を対象に英語に親しむイングリッシュキャンプを行った。プログラミング教育についても、プログラミングに興味のある小学生を対象にプログラミング教室を開催するとともに、教職員向けにNHKの協力による研修会を開催するなどしており、各小学校でプログラミングクラブの活動が活発化している。推進校として邑知小学校に１０月より人型ロボ

ットペッパーを導入し、児童が身近にプログラミングを体験できる環境となり、今後その成果を検証し他の小学校へ広げていきたいと考えている。宿泊合宿については、希望する児童が家庭を離れて学校に通い、さまざまな体験を行っていくものである。【課題】

①複式学級の増加について

児童数の減少により、現在余喜小で複式1学級あるが、近い将来2学級となり、西北台小でも複式学級となってくる。これらの状況を踏まえ、今後のあり方について地域の意見を考慮し教育委員会としても検討していかなければならない課題である。

②教職員の時間外勤務状況について

平成30年度の時間外勤務状況では、県平均と比べ小学校では過労死ラインや月平均を下回っているが、中学校では上回っている。令和元年度ではタイムレコーダーによる勤務時間の管理や業務改善、職員の意識改革などに取り組むことで成果が表れてきているが、小学校では大幅な改善がみられる一方、中学校では部活動指導などにより改善されておらず今後の課題である。

(山辺市長) 勤務時間外については、タイムレコーダーの活用などにより、現状を把握することが第一である。

(安達教育委員) 邑知小学校では、プログラミングを学んだ児童が他の学年の児童に教えており、取り組みがしっかりと広がっている。

(山辺市長) 人工知能は、基準が決まっているものについては人間を上回っているが、範囲が広くなると現時点では人間に勝てないという話を聞いてきた。それらについても適材適所というものがあるということであったので参考にお話しさせていただく。

<協議事項(2)について>

(木谷教育長職務代理) 教員の多忙化改善に向けて今年度スクール・サポート・スタッフ3名、部活動指導員4名を配置してもらっている。先生方も改善に取り組んでおり、会議の効率化では共通の議題では時間をかけるが、文書提案で報告できるものについては時間短縮のため書面で行っている。また、若い教員が増えてきていることから、若年の教職員の指導にも力を入れており、勤務態度もさることながら人間力の育成も必要となっている。それらの指導に対する時間の確保にも取り組んでいるとともに、指導する側の教員もしっかりと取り組んでいる。部活動指導においては、平日で1日と土日のいずれかを休みとすることで取り組んでいるが、改善が難しい現状であり部活動指導員を拡充し効率的な活動が望まれる。今後も指導員等の配置について継続していただきたい。

(井上教育委員) 英語教育について、以前の羽咋市の教育の中で中学校の英語教育への対応が必要であったため教育委員の中でも検討していた中で、英検の受験者が少なかったことから取り組みを進めてきた。教科担任制なので担任によって違いもあるが、子ども達がどれだけ積極的に学ぼうとしているかが重要であり、英検を受験することで積極性が出るように取り組んできた。英検受験に対する補助制度ができて、積極的に受験する子どもが増えており、その成果が表れてきているので、今後も英検受験に対する補助制度を継続していただきたい。

また、英語教育については英語を実際に使ってみることが大変重要であり、海外派遣事業についてもぜひ実施していただきたい。派遣できる生徒数に限りがあることから、派遣された子供たちがそれらの経験を他の子どもたちにも広げていく取り組みも重要である。来年度から小学校にも英語教育が本格導入されることから、ALTによるネイティブな英語は大変有効であり、ALTの増員についてもお願いしたい。

(今井教育委員) 学校教育活動については、快適な学習環境の整備は、学習能力を生み出す原動力となるため大変重要である。その中でトイレの洋式化については、現在全体の6割が洋式化されているが、個別の学校ごとではばらつきがあるため、今後全体的な割合が上がるように年次的に洋式化を進めていただきたい。

デジタル教科書の導入についてであるが、新学習指導要領により授業改善が図られている。その一環として、学習においてデジタル教科書の使用が可能になった。市としてもICTの活用による教育の推進のためにも導入を進めていただきたい。デジタル教科書のツールとして電子黒板がある。近隣市町に比べて羽咋市の導入件数が少ないので、子ども達に対するICT教育の環境整備や教員がデジタル教科書を利用することにより授業の質を高めるためにも導入を検討していただきたい。

(安達教育委員) 学校支援員について、クラスの中には分からないので手を挙げたくても挙げられない子供もいる。そういった子供たちに対して支援員の方が、気配り目配りをしているおかげでみんなと同じような行動がとれ、授業に取り組んでいける。それによりクラス全体の雰囲気も良くなっていくことから今後も各学校での支援員の配置についてお願いしたい。また、図書事務員については、複数の学校を兼務している方が多い。図書事務員がいるときはいいが、常駐してないので図書館全体を活性化する、図書活動を活発にするとところまで手が届かない状態だと思う。できれば各学校に配置してほしい。図書館の利用の仕方は、読書会の開催など昔の利用形態から変化してきており、さまざま

な利用の仕方を提案することで、子ども達の図書に関する興味が出て活性化に繋がると思われる。図書館の利用が活性化すれば子どもたちにも良い影響がでるので図書事務員の増員をお願いしたい。

(山辺市長) 教育委員のみなさま方から教育関連の説明があったが、いずれの項目についても重要な案件であると認識している。予算的なものもあるため、現時点ではご意見として伺い、前向きに対応していきたいと考えている。市の教育水準が高いことは、教育委員会や現場の先生方のおかげであると思っており、ご意見等についても前向きに検討させていただきたい。

(八島教育長) 委員のみなさまのご意見等を参考にしながら来年度の実施に向けて取り組んでいきたい。

(今井教育委員) 市内全小中学校にエアコンを整備していただき感謝する。

(八島教育長) 不登校について、昨年度は羽咋市内に20人弱が不登校となっている。各学校では家庭との連絡を綿密にし、スクールカウンセラーや児童相談所と連絡を取りながら改善に向けて取り組んでいる。

また、いじめについてもアンケートや個別面談などで対応し、情報収集をして未然防止に努めており、現時点でこの会議に諮るような重大な案件の報告はない。

<協議事項(3)について>

(山辺市長) 文部科学省の「文教行政をめぐる最近の情勢について」の説明

※事務局から、令和2年度から実施される会計年度任用職員制度について、第2期がんばる羽咋創生総合戦略について説明

6 次回会議開催について

次回の会議の開催については、今年度内に協議事項が出てきた場合はその都度、次年度については適切な時期に開催することとした。

7 閉会

八島教育長あいさつ